

前回の分科会における主なご意見

項目	主なご意見(概要)
共助体制 (安全対策)	<ul style="list-style-type: none"> ○克雪住宅化が困難な高齢者も多く、こうした方々には、より雪下ろしの支援が重要。 ○共助体制の強化にあたっては、地域毎に目標を立ててリーダー育成に取り組むことが重要。 また、こうしたリーダーが地域のまちづくりの場面で持続的に活躍できる環境づくりも必要。 ○雪下ろしの作業について、安全带使用の義務化につなげられるように技術普及等を進めてほしい。
空き家対策	<ul style="list-style-type: none"> ○豪雪地帯の空き家は、今後、大幅に増加することが見込まれるが、倒壊の問題等もあるので、特措法の運用をはじめ、市町村とも連携して、しっかりと取り組んでほしい。
雪冷熱 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ○雪冷熱エネルギーを導入する際の課題として、コストの問題があり、引き続き国の支援が必要。 ○雪冷熱エネルギーは、老人ホームや病院における、においや湿度等の課題の解決にも効果があり、推進していくべき。
道路交通の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○高速道路の通行止めにより、国道等の幹線道路が渋滞するため、除雪体制の強化や連携が喫緊の課題。 ○ドカ雪対策として、予測システムの活用等によるタイムラインの検討が必要。 ○カメラによる道路状況のリアルタイム配信など、さらなる技術開発・普及も進めてほしい。
克雪住宅	<ul style="list-style-type: none"> ○民間や大学とも連携しながら、既存住宅の改修方法を含め、克雪住宅に関するさらなる技術開発を推進すべき。 ○既存住宅の改修を含め、克雪住宅に対する支援を推進すべき。 ○耐震化と高断熱・高气密住宅の普及促進によって、結果として克雪住宅に近い成果を得られるのではないか。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○豪雪地帯においても、ICT等を活用した先導的技術の導入を進めてほしい。 ○除雪業務については、除雪車やオペレーターの維持を考えると、雪の降り方に左右されない契約方式の導入を進めるべき。 ○高齢者が雪と向き合わなくても済むような暮らし方を提案し、応援することも検討していくべきではないか。 ○豪雪地帯では、豪雪時に大震災が発生することも想定した準備や検討が必要。 ○過疎地域、特に特別豪雪地帯では、これからの日本が直面する人口減少の問題が最も早くかつ厳しく顕在化することから、現状分析等を進めて議論してほしい。